

生ける石

鍵となる聖句：「あなたがたもまた、[生きた]石として、霊的な家として築き上げられ、聖なる祭司の群れとなり、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的な犠牲を献げるためです。」

1ペテロ2:5

選んだ聖句：

1ペテロ2:1-12

「神の民」とみなされることは、人類の歴史を通じて異なる意味を持ち、異なる結果をもたらしてきました。例えば、旧約聖書の記述では、数世紀にわたり神の民を構成したイスラエルの民族について学びます。彼らは信仰と不信仰の時期を繰り返し経験しました。（出エジプト記6:7）神が地上に築かれる王国において、贖われた全人類は、神の民となる機会を与えられるでしょう。 - 黙示録21:3-7

今日の授業では、使徒ペテロはペンテコステ以降、現在の時代に生きる神の民——「最初の復活」における天の報いを希望して地上の野心を犠牲にしている人々——に語りかけています。（黙示録20:6）ペテロは、これらが「霊的な家」として築かれていると説明しています。彼らは「神の予知に従って選ばれた者たち」です。 - 1ペテロ2:5; 1:2

現在の時代における神の民は、ペテロがさらに指摘するように、「あなたがたは、暗闇から神の驚くべき光へと召された方の栄光を現すように」という責任を負っています。（1ペテロ2:9）私たちはかつて暗闇の中にあり、神から離れていましたが、神の民として召されました。その結果、私たちの大きな特権の一つは、福音の喜びの知らせを宣べ伝えることで「神の栄光を現す」ことです。イエスはこう命じられました。「あなたがたの光を人々の前で輝かせ、彼らがあなたがたの善い行いを見て、天にいますあなたがたの父を栄光に帰すように。」 - マタイ24:14; 5:16

「聖なる祭司の群れ」として、神の民は奉仕の目的で世界から分離されています。この祭司の群れに属することは、主イエス・キリストに帰依し、肉の墮落した傾向を捨て去り、その後、犠牲を捧げるこ

とで実現します。(1ペテロ2:1,5) 私たちはこの世にいますが、「この世のものではない」とイエスは言われました。(ヨハネ17:14) 死に至るまで忠実な者は、栄光に包まれた教会がイエスを頭として、人類の世界に義を教える指導者となる「王の祭司団」の一員となります。 - 1ペテロ2:9

私たちのキー・ヴェルスで指摘されたように、イエスに來ることで、私たちは「靈的な家」として築き上げられる生ける石として準備されています。ペテロは、私たちがこの靈的な家を築くと言っているではありません。私たちが「築き上げられる」と言っているのです。各石は、神の設計に従って形作られ、削られ、磨かれて、完璧にその場所にフィットするようにされます。イエスをすべての贖いの代価として固い土台の上に築かれているこの靈的な家の部分として、私たちは神の目に尊い者となります。

さらに、現在の神の民は「特別な民」と呼ばれています。(1ペテロ2:9 ; テトス2:14) この「特別な」という言葉は、「神の所有物としての民」または「目的のための民」を意味し、神が彼らに特別な使命を授けていることを示しています。

これらは「キリストの尊い血」によって贖われたのです。（1ペテロ1:18,19）彼らは主に対して完全に奉獻し、自分を捧げ、キリストを通して受け入れられるようになった者として、命を犠牲として捧げたのです。（ローマ人への手紙12:1）彼らの生涯は完全に神に獻げられています。彼らは「以前は恵みを得られなかったが、今や恵みを得た神の民」であり、神は彼らを特別な宝物としてお考えになっています。 - 1ペテロ2:10